

のために、北滿に轉勤いたしました所、こゝは匪賊の心配もなく、只、〇〇の心配のみにて、落ついて居り、其上、社員に科學の好きなる者あり、一夜、トランシットを持出して天體觀測をしないかと相談したる所、不思議にも、社に五藤製の58ミリ鏡のあるのがわかり、小生、社より借りうけ、先日より時々あたゝかき夜に觀測いたして居りますが、何様、極寒なので（現在零下35~6度）、10分間と觀測出來ず、それ以上して居れば、防寒帽は霜にて眞白になり、手の自由を失ふので、困つて居ります。そして、望遠鏡を室内に入れれば、たちどころに眞白に水分が凍結してしまふと云ふ有様です。

もう少し温かく、せめて零下15度となれば、充分に觀測も出來得るものと思つて居ります。さて私も、かく落着きましたので、出來れば天文協會の一員として、産業報國のかたわら、つくしたく思ひます故、よろしく御願ひいたします。

滿洲は、御存じの如く、空は良いです。空氣はすんで居りますが、新京、奉天等、都會の冬は御話にならない位、空氣が悪く、晴天に、月でさへ煙のため曇つて見へます。來年は一度内地にかへりたく思つて居ります。其時は、出來れば、御目にかゝりたく思ひます。家族の者は内地に居り、元氣で居ります。

一月13日

田 中 朝 夫

編 輯 室 よ り

天界多事のため、昨年十一月の水星の太陽面經過の報告記事が今まで印刷出來なかつたのは残念であつた。（但し觀測結果だけは、いち早くドイツのナハリヒテン誌へ送つて置いたので、發表済みである。）當日、晴天に恵まれた關西方面だけで、之だけの成績が挙げられたのは満足である。あの日、米國では初觸だけを、我が國では終觸だけを見たわけである。ハワイでは初めも終りも見えた筈●年末から夥しい彗星が去來する。之れに因んで、フィッ博士の“彗星談義”を読んで貰ひたい。●本會出版部では今般“紀要”Memoirs といふものを出すことにし、そのため、本誌の一部を國際化して、獨創論文は外國の専門家に解るやうにし、大に國威を發揚することにした。詳細は次號を見て頂きたい。●二月號第63頁の寫眞は名古屋の小澤氏の256耗機につき訂正する。之は編輯の失敗であつた。●天界168號を持ち合はせてゐる人は、其の口繪寫眞を見て御覽なさい。時局がら、一寸ホ、エマシイ狀景です。